



はじめに

- 「大妻募金ニュース」は、本学にお寄せいただいた寄付に関するニュースをお届けします。6月と12月の年2回発行予定です。
- 今号はページを増やして令和2年度の寄付金実績や活用事例、新たにスタートする大妻講堂修繕支援募金についてご報告しております。どうぞご覧ください。

目次：

1	ご協力ありがとうございました—令和2年度寄付金のご報告
2	令和2年度の寄付金活用事例をご紹介します
3	オリジナル返礼品にOG小林さんブレンドのお米が追加
4	大妻講堂修繕支援募金にご協力ください

★Otsuma フォト



コロナ禍のため1年越しで行われた令和2年度入学式（大妻講堂）

1. ご協力ありがとうございました—令和2年度寄付金のご報告

大妻学院に温かいご支援を賜りました卒業生をはじめとした有志の皆さま、心より感謝申し上げます。

令和2（2020）年度決算に基づく寄付金の総額、大妻未来募金内訳を以下のとおりご報告いたします。

● 総額

（円）

寄付金の種類		件数	金額
学術奨励	奨学寄付	11	11,634,218
	人間生活文化研究所賛助会費	12	3,000,000
	小計	23	14,634,218
教育研究支援	個人からの寄付	540	9,846,001
	学院関係団体、法人からの寄付	23	111,034,066
	小計	563	120,880,067
就学支援	個人からの寄付	36	10,976,000
	学院関係団体、法人からの寄付	4	15,396,000
	小計	40	26,372,000
環境整備支援	個人からの寄付	9	75,000
	学院関係団体、法人からの寄付	1	200,000
	小計	10	275,000
現物寄付		-	142,421,156
古本募金*		-	57,000
その他寄付金		2	1,800,000
合計		638	306,439,441

※2018年10月から開始。累計は令和3年6月1日現在で559,746円（20,776冊）です。

● 大妻未来募金 内訳

（千円）

指定いただいた用途	件数	金額
キャリア支援	9	56
国際交流支援	2	6
課外・ボランティア活動支援	6	41
地域社会との連携事業に対する支援	6	122
指定なし	大・短・院	26
	中高	3
	多摩中高	2
	中野中高	7
	嵐山中高	0
	大妻学院	29
奨学金	大・短・院	22
	中高	2
	多摩中高	2
	中野中高	9
	嵐山中高	2
施設・環境整備	10	275
新型コロナウイルス感染症対応修学支援	461	13,623
合計	598	33,497

（千円）

	個人	法人	団体	金額
一般	10,089	6,050	0	16,139
教職員	3,173	0	0	3,173
元教職員	873	0	0	873
在学生	72	0	0	72
卒業生	6,175	4,720	1,830	12,725
保護者	515	0	0	515
計	20,897	10,770	1,830	33,497

（のべ人数）

	個人	法人	団体	人数
一般	11	6	0	17
教職員	122	0	0	122
元教職員	37	0	0	37
在学生	5	0	0	5
卒業生	372	1	6	379
保護者	18	0	0	18
計	565	7	6	578

大妻募金ニュース

2. 令和2年度の寄付金活用事例をご紹介します

いただいた寄付金について、令和2年度の活用事例を一部ご紹介します。

寄付金はコロナ禍で学内・学外でのさまざまな活動が制限される中でも学びを止めないよう、学生・生徒への経済

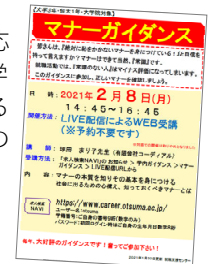
的支援や感染拡大対策費をはじめ、オンラインでのガイダンスやシンポジウムを行うための費用などに利用させていただきました。改めてお礼申し上げます。

就職マナーガイダンス実施費として

キャリア支援指定で令和元年度にいただいた寄付金70,000円は、「就職マナーガイダンス」実施費用の一部に充当しました。

このガイダンスは大学3年生、短大1年生および院生を対象として、マナーの本質を知りその基本を身につけること

を目的として行ったもので、コロナ禍対応としてオンラインLIVE配信形式で実施。学生たちはプレゼンテーション能力を高めるポイントや面接で好感を持たれる話し方のコツなど約2時間にわたって学ぶことができました。



多様性教育実現のためのシンポジウム開催費などに（国際交流支援）



卒業生の財産を相続した親族の方から令和元年10月、国際交流を指定使途にした相続財産の寄付金1,000万円をいただきました。その寄付金を令和2年度、次のとおり活用させていただきました。

- ・『多様性教育実現のためのシンポジウム「多様性と大学と社会」』開催費用（161,370円）

オックスフォード大学日本事務所代表アリソン・ビール氏、神田外語大学学長宮内孝久氏、株式会社JALスカイ代表取締役社長・日本航空株式会社執行役員屋敷和子氏を招き、多様性教育やその導入などについて議論するためのオンラインシンポジウム（写真）を実施しました。シンポジウムは本学国際センターのYouTubeでご覧いただけます。

シンポジウムURL

<https://youtu.be/zQd6b78tIUU>



- ・留学生へのオンライン・ピアサポート実施費用（24,200円）

正規留学生に対して、授業内容や授業での日本語に関する疑問などに応えるため、日本人学生がオンラインにてピアサポートを行う費用に使用しました。令和2年11月24日～令和3年2月6日（12月23日～1月8日を除く）、3名の希望留学生に対し、3名の日本人学生がZoomなどで週1時間のサポートを行いました。

- ・CASECによる正課英語教育の成果検証テスト実施費用（561,000円）

2020年度正課英語教育の成果を検証するため、4月にクラス分けテストで受験したCASECを1月に再受験し、受験者のスコアの変動を、その間の正課英語教育の成果・有効性を検証する指標とする。合計206名が受験しました。2021年度に再度テストを行い、2年分のデータにより成果を検証する予定です。

その他、国際交流推進にともなう事務経費として、冊子「国際交流のすすめ」製作費、オンライン体験留学業務委託料、国際センターホームページ外国語（英語、中国語、韓国語）翻訳料等などにも活用し、残額は令和3年度に利用させていただく予定です。

電子黒板購入、ウイルス感染拡大対策品に（教育研究支援：大妻中高、嵐山中高）



設置校を指定して令和元年度にいただいた教育研究支援寄付金のうち、大妻中学高等学校指定の162,800円は電子黒板（写真）購入費に充当しました。電子黒板は生徒への伝達事項周知するほか、生徒会が新入生歓迎会や部紹介、文化祭などさまざまな行事で動画をアップして発表に利用する

など、生徒の自主的・創造的な活用にする予定です。

大妻嵐山中学高等学校指定でいただいた15,000円は新型コロナウイルス感染症予防対策としてペーパータオルやポリエチレン手袋当教室等の清掃用品購入費に充当しました。

大妻募金ニュース

学生・生徒への修学支援金 サーマルカメラ購入費などに（コロナ対応寄付）

令和2年度にいただいた新型コロナウイルス感染症対応修学支援寄付金は、次のとおり活用させていただきました。

【大学（短大、大学院含む）】

経済的に困窮している学生（※）学生254人に修学支援金総額1,270,000円を給付。また対面授業実施にともなう感染拡大防止措置として、サーマルカメラ導入（2台：1,162,295円）、情報処理教室等への飛沫防止パーテーション設置（1,042台：6,666,110円）に係る費用に充当しました。〔※日本学生支援機構（JASSO）「新型コロナウイルス感染症対策助成事金」対象者基準に準拠〕。

【中高】

コロナ禍を要因とした家計急変者への対応として、大妻中高生生徒8人分総額544,000円、大妻多摩中高生生徒3人分総額229,000円、大妻中野中高生生徒6人分528,000円を授業料減免対応費に充当しました。



なお、同寄付金は募集期間を令和3年3月31日までとしておりましたが、令和4年3月31日まで延長いたしました。引き続きご支援をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

中国近代の芸術家・呉昌碩の特別展を開催（現物寄付）



中国近代で最も優れた芸術家と評される呉昌碩の掛軸1幅が令和2年7月、宮崎木材工業株式会社（宮崎真里子代表取締役社長）から大妻女子大学博物館に寄贈（現物寄付）されました。令和3年3月16日～4月9日、4月13日～5月12日には特別展「呉昌碩と日本人」を開催して一般公開

し、活用させていただきました（写真）。

博物館への寄贈は、呉昌碩を研究する文学部コミュニケーション文化学科・松村茂樹教授が、呉昌碩と直接の交流を持ち掛軸を所蔵していた同社3代目・宮崎平七氏を調査したことがきっかけ。掛軸の贈呈式では宮崎社長から「博物館に寄贈できたことを呉昌碩も宮崎平七も喜んでくれると思います。研究に役立てていただければうれしいです」とのお言葉をいただきました。

3. オリジナル返礼品にOG小林さんブレンドのお米が追加

卒業生のお店に協力いただいております大妻未来募金寄付者へのオリジナル返礼品。令和3年度は本学OGで五ツ星お米マイスターの資格を持つ小林祥子さん（短期大学部家政科1974年卒）の米屋「吉田屋」とコラボしたブレンド米「和（なごみ）」を新しく追加しました。

「和」は小林さんとご子息の健志さんが大妻をイメージして作ったブレンド米2種を、食物系教員・助手を含む学内関係者で試食して選んだもの。やわらかい香りともっちりした食感が特徴です。「和」のネーミングは試食会参加者の公募によるもので「お米のブレンドだから調和の和」「大妻は“和”裁発祥」などという意見を取り入れて決められました。

お米マイスターの仕事だけでなく、米袋を使ったアクセサリーのワークショップを本学イベント「大妻さくらフェ

スティバル」で行うなど、これまでも積極的に本学に関わってくださった小林さん。今回のブレンド米企画について「改めて楽しくお米と向き合うことができました。たくさんの方に召し上がっていただきたいと思います」と感想を寄せています。



※寄付・募金グループではお店を営み、活躍されている卒業生の情報を随時募集しています（自薦、他薦は問いません）。どうぞお気軽にご連絡ください。

大妻募金ニュース

4.大妻講堂修繕支援募金にご協力ください



大妻講堂の大規模修繕工事を令和4～5年度に行うにあたり、「大妻講堂修繕支援募金」を開始いたしました。令和3年度末まではコロナ禍対応の大妻未来募金「新型コロナウイルス感染症対応修学支援」寄付金と重ねての依頼になりますが、何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

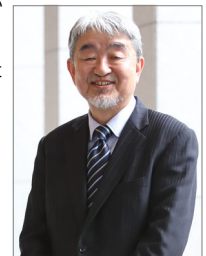
大規模修繕工事の内容は天井耐震、椅子の更新、パイプオルガンオーバーホール、床面カーペット敷設、配管工事等です。全体の総工費が約7億円、うち椅子の更新に約1億円の支出を予定しています。募金の募集期間は令和3年6月1日から令和6年3月31日まで、目標金額は5,000万円とし、寄付金は主に椅子の更新費に充当させていただきます。ご協力いただいたすべての方のお名前は寄付者銘板に録し、期間中に所定金額（個人5万円、法人50万円）以上を寄付してくださった際は、更新した椅子に芳名プレートを取り付け、ともに末長く顕彰いたします。

レンガ壁が印象的だった旧大妻講堂からパイプオルガン

のある現行の大妻講堂に変わったのが平成4年。文化祭や合唱コンサート等多くの学校行事で使用されながら約30年が経過し、座面もだいたい傷んできました。新しい椅子は学生、生徒および保証人の皆さま等にゆとりをもって利用していただけるよう座席幅が5センチ広がり、格納式メモ台がついた劇場・コンサートホール仕様の席になります。工事の間の約1年弱、講堂が使用できなくなり、関係者の方にはご不便をおかけしますがどうかご了承ください。

講堂は大妻技芸学校の頃から存在し、創立者大妻コタカの朝礼・夕礼の場として、入学式・卒業式等式典や行事の場として活用されてきました。途中、戦災や震災等で3度焼失する苦難を乗り越え、場所も構造も大きく変化しましたが、大妻講堂が学院創立の精神と理想に想いをいたすシンボル施設の一つであることに変わりはありません。

今後も大妻生の多くの思い出を紡いでいくためにどうか大妻講堂にお名前を残し、本学をご支援くださいますようお願いいたします。



大妻学院理事長 伊藤正直

●大妻講堂修繕支援募金 募集概要

◇募集期間

令和3（2021）年6月1日～令和6年（2024）3月31日

◇目的

椅子の更新費等へ充当するため

◇目標金額

5,000万円

◇募集金額

個人5,000円以上、法人30万円以上

※金額に満たない場合でも受付します。寄付金額の上限はありません

◇申込方法

【個人】

所定の振込用紙、インターネットでお申し込みください。

【法人】

末尾の問い合わせ先へご連絡ください。所定用紙を郵送します。

◇特典・顕彰

- ・寄付者のご芳名をホームページおよび寄付者銘板（講堂内もしくは外に設置予定）に掲載して顕彰します
- ※匿名希望の方は除く

- ・寄付金額に応じ、新しい椅子の背板に芳名プレートを設置します。募集期間内で、個人5万円につき1席、法人50万円につき1席とし、多くの方に参加いただくため1個人および1法人のプレート取り付けは20席を上限とします。

※大妻講堂修繕支援募金は大妻未来募金の特典・顕彰の対象外です。恐れ入りますがご了承ください。

※プレートには氏名の他、ご希望に応じて卒業校／学部、卒業年、企業ロゴ等も表記いたします。



（仕様等変更になる場合があります）

◇税制上の優遇措置

大妻学院への2,000円を超えるご寄付は、確定申告をすることで税制上の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。詳細はホームページ「税制上の優遇措置」をご覧ください。

編集後記

募金ニュース第5号いかがでしたでしょうか。学院ホームページに掲載している「大妻講堂修繕支援募金」の募集ページには、講堂の歴史・変遷と合わせ、過去の貴重な写真を掲載しております。この機会にぜひご覧ください。

編集・発行／問い合わせ先

大妻学院財務センター 寄付・募金グループ

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地

電話：03（5275）6407 <平日8:30～17:30>

FAX：03（5275）6800

電子メール：kifu@ml.otsuma.ac.jp

URL <http://www.otsuma.jp/donation/>

